

灯

する3台の機関車の一つとまで
評価されるに至った。

まことに小さな国が、で始まるNHKの人気番組「坂の上の雲」が終わった。昨年、わが国は東日本大震災という未曾有の大

まことに小さな国が世界のけん引車の一つにまでなったその原点が「坂の上の雲」の随所にみられることが人気の要因と思われる。

災害と深刻な原発事故を抱え、日本という国は果たして3度目の復活が成るのか、世界中から注目を集めている。

そして、いま巨大な災害にわが国はどう対応するのか。これまでのように見事に復活できるのか。実に国家のありようが問われている。

復活の第1は明治維新で、一つ間違えば列強の植民地化もあり得たはずだが、見事に政権交代を乗り切り、近代化のスタートを切った。まさに「坂の上の雲」の時代で結果、日清、日露の戦争に勝利したが、勢い余って第2次世界大戦へと突き進み、完膚なきまでの敗戦を喫した。しかし、勤勉な国民性もあって、その敗戦からも第2の復活を遂げ、いつしか世界経済をけん引



草野 義輔

と、我慢強い国民がいた。今は迎合する政治家と省益重視の官僚、加えて何でも欲しがる国民が多すぎはしないか。

第3の復活はこれらをいかに克服できるかにかかっている。今年が復活の出発点になればと願う。(昭和学園高校理事長・日田市)

過去2回は、腰が据わって安易に国民に迎合しない政治家